

第3学年国語科学習指導案

児童 3年2組 男16名 女12名 計28名
 指導者 野崎 祐司

相違点や共通点に気をつけながら聞き合い、考えを整理していく力を育てる学習活動の工夫

1 単元名 学習したことを生かして (学習材名「モチモチの木」光村3年下)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「読むこと」の前単元「ちいちゃんのかげおくり」では、叙述を基に情景や主人公の気持ちを想像して読み、感じたことをまとめる学習をしてきた。しかし、自分の力で大事な叙述を見つけ出した、学び合う中で自分の想像を深めたりしていく力が十分に付いているとはいえない。

「話すこと・聞くこと」の前単元「考えを整理して話し合おう」では、音楽チームやポートボールチームの名前を決める活動を通して、考えやわけの相違点や共通点に気を付けて聞き合い、目的に沿ってお互いの考えを一つのものにまとめる話し合いの学習を初めて行った。この学習を通し、質問することで友達の考えやわけが自分と比べてどうなのかがはっきりしてくることも、比べて聞くことで自分の考えがはっきりし、それが考えを整理していくことにつながっていることを理解してきている。しかし、互いの相違点や共通点を整理しながら物事をうまく一つに決めていく力が十分に付いているとはいえない。

このような児童に、主体的に学習活動を工夫して取り組む場を設定し、自らの力で読み取ったり、考えの相違に気をつけて聞き合い、考えを整理したりする力を確かに付けていくことが大切であるとする。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元は、児童がこれまでの学習経験を生かして、自らの力で学習材と取り組み、楽しみながら自分なりに学習活動を工夫して取り組むことをねらいとした総合単元学習である。

本単元の主たる指導事項は、「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」「自分の考えをまとめることで感じ方や考え方の違いに気付くこと」と「互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うこと」である。この力を培うために、「場面の様子を想像して読むこと」「友だちの考えと自分の考えを比べて聞くこと」「分からないことは聞き返し、確かめながら話し合うこと」などの力を育てていくことが必要である。本単元では、「叙述を基に場面の情景や人物の気持ちを想像することと考えを比べながら聞き合い、整理すること」が、指導の中心となる。

このような力を育てるために、「モチモチの木」を用いる。この学習材は、モチモチの木(とちの木)のそばでじさまと二人きりで暮らす豆太が、じさまを助けようとして、臆病豆太から勇気ある豆太へと変わっていく物語文である。豆太が勇気を出したとき、モチモチの木に灯がともる情景は、美しい挿絵で描写されている。

この学習材を通して児童は豆太の姿に親近感を抱き、話の奥にある勇気とやさしさを感じながら読み進めることができるであろう。起承転結がはっきりしており、児童がこの作品のよさを感じ、それを伝える学習につながるには、適した学習材であるとする。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のようにしたい。

単元のみとおす段階では、「学習したことを生かして」を読み、今までにどんな学習活動を行ってきたのか、どんな力を身に付けてきたのかを具体的に示しながら1年間の学習をふり返る。単元の最後には、これまで「そよかぜ音読」を聞いて励ましてくださった家庭の方々に「モチモチの木」の発表会を行うという見通しをもつ。そのために、学習材を読み取ること、これまでの学習を生かした内容で発表することを確かめる。

ふかめる段階では、「モチモチの木」を読み取るために、対話の力を活用し、自分の課題や友だちの課題を考え合う学習を組む。初発の感想を大事にして、課題意識をもたせ、叙述を基に読み取る学習をすすめることで、自ら読みに向かい、読みを確実にさせていく。「豆太」や「じさま」の性格や行動、豆太と「モチモチの木」の関係など、場面を区切ったりお話全体を大きく捉えたりして読み進めたい。

まとめる段階の最後には、学習発表会を行う。そのために、「モチモチの木」の何を伝えるか、どんな発表の仕方や内容があるのかを聞き合う活動を、活動別の小グループで行う。これまでの聞き合いの力を生かして、「考えを比べながら聞き合うことが整理することにつながる」ということを確かめる。その後は、グループ毎に発表の準備を進める。中間発表を設け、お互いに意見を出し合い、よりよい活動につなげるようにする。学習発表会を行った後には、感想をまとめ、自分たちの力で学習活動を工夫し、実践できたことを価値付け、次学年への意欲付けとしたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・お話を楽しみながら読むとともに、自分の考えと比べながら相手の考えを聞こうとする。
- ・発表会をすることに関心をもち、進んで準備に取り組もうとする。

(2) 話すこと・聞くこと

- ・活動内容とそのわけの相違点や共通点に気を付けて聞き合い、考えを整理することができる。

(3) 読むこと

- ・情景や登場人物の叙述を基に、豆太の様子や気持ちを想像しながら読むことができる。
- ・一人一人の感じ方や考え方の違いに気付き、考えを深めることができる。

(4) 言語についての知識・理解・技能

- ・表現したり理解したりするために必要な語句を増すことができる。
- ・相手や目的、場に応じた音量や速さで話すことができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
①豆太の成長に興味をもって読むとともに、自分の考えと比べながら相手の話を聞こうとしている。 ②発表会をすることに関心をもち進んで準備に取り組んでいる。	①友だちと自分の考えの相違点や共通点を聞き分けている。 ②聞き合ったことを確かめながら考えを整理している。	①叙述を基に、登場人物の様子や気持ちを想像している。 ②豆太の様子や気持ちを読み取り一人一人の感じ方や考え方の違いに気付き考えを深めている。	①比喩が表現効果を高めていることを理解している。 ②その場の状況に応じた声の大きさと速さで話している。

5 学習指導計画（17時間扱い）

<p>【関連する前単元】「ちいちゃんのかげおくり」</p> <p>○叙述を基に場面の移り変わりや情景を想像し、自分の考えをまとめる。 「名前を付けよう」</p> <p>○相違点や共通点に気を付けて聞き、考えを整理して話し合うことができる。</p>	<p>【関連する対話の指導】</p> <p>○相手と自分の考えが同じか違うか比べながら聞くこと。</p>
---	--



段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○どんな活動をしていきたいか考えよう。	・「学習したことを生かして」を読み、1年間の学習をふり返り、学習のねらいを確かめる。（1，5） ・自分なりにやってみたい学習活動を考えて見直しをもつ。	アー① 豆太の成長に興味を持ち、自分の考えと比べながら聞こうとしている。（発言・ノート）
ふかめる	○モチモチの木の様子を想像したり、豆太やじさまの行動を想像したりして、登場人物の気持ちを考えよう。	・「モチモチの木」を読んで初発の感想を書く。（1） ・初めの感想を交流し合い、学習課題を立てる。（1） ・豆太の言動やモチモチの木の様子から豆太の臆病な様子を想像する。（1） ・モチモチの木の様子を想像する。（1） ・霜月二十日のぼんの話の聞いて、あきらめる豆太の様子や気持ちを想像する。（1） ・じさまを助けるために勇気を出す豆太の様子や気持ちを想像する。（1） ・じさまのことばにある、豆太に伝えたいことの意味を考え、この作品のよさは何か自分の考えをもつ。（0，5） ・じさまのことばの意味を聞き合い、この作品のよさは何かを考える。（1）1組本時	アー① 豆太の成長に興味を持ち、おもしろいところについて感想を書いたり発表したりしている。（発言・ノート） ウー① 叙述を基にモチモチの木の様子や豆太の気持ちを想像している。（発言・ノート） ウー② 豆太の様子や気持ちを想像し、感じ方や考え方の違いに気付いている。（発言・ノート） エー①比喩が表現効果を高めていることを理解している。（発言・ノート）
まとめる	○学習発表会をしよう。	・自分の活動内容を決め、内容について考えをもつ。（1） ・活動別に取り組む内容について話し合う。（2）2組本時 ・発表グループ毎に準備を進める。（2） ・中間発表を行い、意見を交流する。（1） ・中間発表を受け、見なおしながら準備を進める。（1） ・おうちの方々にに向けて発表会を行い、ふり返る。（2）	アー② 発表会の準備に進んで取り組んでいる。（発言・シート） イー① 友だちと自分の考えの相違点や共通点を聞き分けている。 イー②聞き合ったことを確かめながら考えを整理している。（発言・シート） エー②その場の状況に応じた声の大きさと速さで話している（発言）

【生かす単元】「三つのお願い」 ○叙述を押さえて場面の情景や登場人物の気持ちを想像しながら読む。
「新聞記者になろう」○新聞の名前や取り上げる記事について考えを整理して話し合う。

6 本時の指導

(1) ねらい

活動の内容とそのわけの相違点や共通点に気をつけながら聞き合い、考えを整理することができる。

(2) 展開

段階	学習活動 (○主 発 問)	単 位 時 分	◇ 学 習 内 容	教 師 の 関 わり ☆ 評 価 (方法)
みとおす	1 学習のめあてと進め方を確かめる。 どんな活動にしたいか、わけに気をつけて話し合おう。	3	◇「考えを整理して話し合うこと」について確かめること。	・共通点や相違点に気をつけて聞くことや質問してわけをよりはっきりさせながら話し合うことを確かめる。
ふかめる	2 グループごとに話し合う。 (1) どんな活動にしたいかとそのわけについて聞き合う。 ○どんな活動にしたいのか、なぜそのように考えたのかを聞き合いましょう。 (2) 聞き合ったことについて質問したり、考えを言ったりする。 (3) わけをはっきりさせて、考えを整理する。	18	◇自分が考えた活動とわけを話し、自分の考えと比べながらグループの人の考えを聞くこと。 ・私は、役を決めて音読をしたいです。わけは、聞いている人が分かりやすいからです。 ◇活動の内容やわけについて、質問したり確かめたりすること。 ・ぼくの「音を入れて読んだりする」とAさんの「役を決めて読む」は、「豆太の必死な気持ちを表したい」というところが同じですね。けれども、ぼくには「豆太をおどかしているモチモチの木の様子も表したい」というわけもあります。そこはAさんと違いますね。どうですか。	・希望活動ごとにグループを組む。人数は4～5人とし進行役を位置付けるが、みんなで話し合いを進めていくという気持ちを大事にする。 ☆相違点や共通点に気をつけながら聞き合い、考えを整理して活動の仕方を決める話し合いができていますか。 (話し合い・学習シート) [努力を要する障への対応] 「わけは～」という言葉に気をつけて話を聞くように助言する。
	3 話し合っただけの決まったことを整理し、まとめる。	10	・ぼくは、人物の気持ちが表れる音読の工夫だけを考えていたけど、Cさんの考えを聞いて、照明を入れて音読するのもいいと思いました。わけは、そのときの人物の気持ちだけでなく、場面の様子がよく表れるからです。	・整理に行き詰まっている班には、「何を一番伝えたいのか、そのためにどんな工夫があればいいのか」という、願いを聞き合うことが大事であることを押さえる。
	4 各班の話し合いの仕方について学び合う。 (1) 決まった活動とわけについて聞き合う。 ○それぞれのグループの活動とわけを、みんなで聞き合いましょう。 (2) 話し合いの仕方について振り返る。	12	◇自分たちのグループの決め方と比べながら聞くこと。 ◇考えやわけを聞くことができたか、考えを整理することができていたかを振り返ること。	
まとめる	5 学習のまとめをする。	2	◇相違点や共通点に気をつけて話を聞くことができるようになったかについてまとめること。	・比べて聞くことの大切さを確かめ、子供たちの話し合いのよさを認めたい。